

「教育・子育て」をテーマとした 「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

〔開催概要〕

日時:平成26年7月2日(水)18:00~19:00

場所:かごしま市民福祉プラザ

※平成26年度 第2回目

平成26年7月

鹿児島市 市民協働課

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成26年7月2日(水)18:00~19:00

場所:かごしま市民福祉プラザ

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
1	かごしま文庫の会 女性	<p>① 市立図書館の民間委託の話は、図書館法で定められた図書館協議会の2月の会議でも午後9時までの開館延長の話がなく、市民にとっては寝耳に水だった。市民と触れ合う部門が委託され、子どもと本の橋渡しをする職員がいなくなり、今後大変な事態になるのではと危惧している。</p> <p>② 来年で市立図書館が開館して25年になるが、この間、子どものサービスに関わる職員が全く育成されてこなかった。おはなし会は子どもと本をつなぐ大切な機会であるが、この24年間、私達ボランティアが行っている。市の責任で、図書館の専門職員を育成してほしい。 本の選定にしても、専門家がいなくてカタログから選ぶだけであり、しかも東京の業者のカタログで、地元の本屋で選んでいない。地元の本屋は厳しい状況にあるので、せめて市立図書館の本は、地元の本屋から買うべきではないか。 学校図書館と市立図書館の連携について、図書館法の中に学校教育に資するようという条文がある。学校指導要領が変わり、子ども達には知識を与えるだけではなく、子ども達自身が資料を集めて判断して表現するという力が求められているが、必要なだけの資料が準備できていない。現在は非常勤嘱託の司書が、自分の車で借りに行っている状況で、学校によってはそれすらも行われていない。 学校図書館支援センターを作り、市立図書館から必要な資料を必要ときに届けてくれる制度を作してほしい。</p>	<p>① 市民の利便性を考えて、今回6月より市立図書館の開館時間を午後9時まで延長しました。様々な課題があるとお聞きしましたが、始まったばかりですので、状況を見ながら、また、皆様のご意見を伺いながら、改善すべきところは改善して、市民の皆様に喜んでいただけるような対応をしたいと思えます。</p> <p>② 新しい制度や職員の育成につきましては、市立図書館や学校図書館の果たすそれぞれの役割を踏まえて対応していきたいと思えますので、ご意見は所管する教育委員会へ伝えたいと思えます。</p>	教育委員会	<p>窓口等の業務委託は、民間事業者の有する知識や経験、ノウハウを活かした効率的・効果的な業務の執行により、接遇面での質の高いサービスを提供できるものと考えております。また、開館時間の延長とともに、緊急時や繁忙期におけるスタッフの柔軟で弾力的な配置が可能となるサポート体制が確立できるものと考えております。 業務委託については、業務実施方法を変更したものであり、図書館業務は変更がないことから、図書館協議会の議題としなかったものです。 また、おはなし会やレファレンス等については、業務委託後もこれまでどおり実施しており、変更はないところです。</p> <p>図書館の運営には、ボランティアの力もなくてはならないものであり、これまでの尽力に対して、深く感謝しております。今後も、市民サービスの向上を図るため、ボランティアの育成に力を注いでまいりたいと考えています。 なお、おはなし会は、ボランティアだけではなく、職員や嘱託職員でも行ってきており、業務委託後についても、嘱託職員のおはなし会は委託業者が実施しております。 市立図書館の図書資料については、平成25年度から、録音図書等市内業者で取り扱いのないもの以外は地元業者から購入しており、市内業者から97.6%の購入を行っております。今後ともできるだけ地元業者に配慮した購入を行ってまいりたいと考えております。 学校から学校図書館支援センターを作ることに關しては、現時点で要望は出ておりません。また、必要な資料についても、総合的な学習の時間に対応して、近年調べ学習用の図書の配備も増加しています。さらに、不足している必要図書については、市図書館と連携した「特別貸出」によって対応しておりますことから、現時点においては、その必要性については低いと考えています。</p>

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成26年7月2日(水)18:00~19:00

場所:かごしま市民福祉プラザ

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
2	NPO法人こどもサポート鹿児島 男性	③ 県のこども総合療育センターと連携して発達障害を要因とする不登校、引きこもりの学生の支援を行っているが、その他に、貧困の連鎖を断ち切るため、生活保護世帯の子どもに対する学習支援を行いたいと思っている。今後、事業を進めるにあたって、市長の考えを伺いたい。	③ 鹿児島市でも、発達障害の方に対する支援を、県と連携して対応しております。母子保健課、障害福祉課、学校教育課が連携して対応しています。 教育委員会では、教員を志望する学生を支援員として学校に派遣しております。 また、発達障害を含む障害のある子どもさんやその保護者の方に対する支援として、早期発見、早期療育の観点から、児童発達支援や放課後等デイサービス等を実施しております。 子育て支援部や保健所においても、親子教室や相談会を開催しております。 未来を担う子ども達を、障害の有無に関わらず、大切に育てていく環境づくりが重要だと思っておりますので、皆様には所管部局と連携していただき、ご協力をお願いしたいと思います。	健康福祉局 教育委員会	【健康福祉局】 市長回答のとおり 【教育委員会】 教育委員会では、発達障害を含む特別な支援が必要な幼児児童生徒への支援を充実するために、特別支援教育支援員を学校に配置しております。また、教員を志望する学生を支援員として派遣しております。
3	ヨンゴジッククラブ 男性	④ 我々の団体は、60代、70代の退職者を中心にボランティアでマジックをしていて、お達者クラブ、児童クラブ、あいご会、グループホームなどを対象に、年100回ほど行っている。個人では長寿支援課の元気高齢者にも登録していて、ご要望を受けて活動させていただいている。年寄りになると、「今日行くところがある」「今日用事がある」という意味での、「きょういく」「きょうよう」が大切になってくる。これからも、社会への恩返しのために頑張っていきたい。	④ すばらしいお話を聞かせていただきました。皆さんに元気を与える楽しいマジックを披露していただいていることに、感謝いたします。	健康福祉局	長寿支援課で行っている元気高齢者活動支援事業においては、今後とも、様々な知識や経験を有する高齢者の積極的な社会参加と生きがいづくりを支援してまいります。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成26年7月2日(水)18:00~19:00

場所:かごしま市民福祉プラザ

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
4	Smooth 女性	⑤ 小学5、6年生を対象に、学校へ出向いで、子ども達の夢を形にする授業を行っている。自分の好きなことや得意なことを探り、どんな仕事に向いているかを考えることで、子ども達には、自分のことがわかった、自分のやりたいことが見つかった、などの感想をいただいている。義務教育の子ども達には、平等にキャリア教育を与えたいと思うが、外部講師を依頼する予算が学校にはないのが現状である。学校に予算を与えて、市内の全小学校で、平等にキャリア教育を行うことはできないか。	⑤ 大変有意義な授業だと思われますので、内容について教育委員会に聞いてみたいと思います。予算については、有意義な活動に使われるのであれば、各学校の意向を踏まえて、計上できればと思います。	教育委員会	キャリア教育は、児童生徒の自立を目指して望ましい職業観、勤労観や社会人、職業人としての基本的な能力を育てるものです。 教育委員会では、市の「個性あふれる学校づくり推進事業」を通して、小学生を対象に身近な職場見学や物づくり体験、外部講師による職業や進路に関する授業等を推進しております。
5	上之園町町内会 女性	⑥ 鹿児島市では、子どもの医療費は一度窓口で支払ってから払い戻されるシステムになっているが、東京23区や福岡市、熊本市などは、窓口で払わなくてよいシステムになっている。子どもが夜間に急病になった時に、誰でもすぐに受診できるよう、窓口での支払いのない制度にしてほしい。 鹿児島市が魅力的なまちになれば私達も誇りに思うし、子育てがしやすいことを発信していきたいと思うので、前向きに検討してもらいたい。	⑥ 鹿児島市では、市独自の対応として、平成25年8月から医療費の無料化を小学6年生まで拡充しました。県の補助事業で対応しておりますが、それぞれの自治体が財政状況や皆様の要望を踏まえながら、拡充しているところです。 現在、子どもの医療費の助成は償還払いとなっておりますが、これを変更するには鹿児島市を含む県全体の医療機関との協議が必要です。県の補助事業でありますので、医療機関に直接市から医療費を支払えるよう、県の市長会でも県へ要望しております。 また、医療費の助成については、中学生まで無料の都市があるなど自治体でまちまちですので、「子どもの医療費無料化制度」を国の制度とするよう、全国市長会を通じて要望しております。 子どもの医療費助成については、様々な課題をクリアしていく必要がありますし、各自治体で足並みをそろえる必要もあります。 ただいまのご意見は私どもに届いておりますので、今後も調査研究して、県に要望していきたいと思っております。	健康福祉局	市長回答のとおり。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成26年7月2日(水)18:00~19:00

場所:かごしま市民福祉プラザ

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
6	円ブリオかごしま 女性	⑦ 思いがけない妊娠に悩む妊婦を、物心両面から支援する活動をしているが、活動をしていて、妊娠、出産に特化した、行きやすい相談窓口があればいいと感じる。民間だけでは及ばないところもあるので、専門家と連携して妊婦をサポートしていただけたらと思う。	⑦ 妊婦さんの悩みに対する相談窓口としては、各保健センター・保健福祉課で、面接や電話等で応じております。そのような組織があることを知らない方がまだ多いということをお話を伺って感じましたので、市としても対応していることを情報発信していきたいと思っております。	健康福祉局	市長回答のとおり。
7	かごしま文庫の会 女性	⑧ 小学校に勤務していたが、学校図書館は子ども達が育っていく上で大事な場所であると実感していた。しかし、調べ学習の際に資料を探すのは、学校図書館だけでは無理がある。学校図書館支援センターに質のいい図鑑等をそろえ、貸し出しできるシステムがないと、たくさんの子供が読みたいと思っても、学校に1冊だけでは子ども達の手が届かない。読書環境を充実させるには学校図書館だけでは不十分なので、支援センターをつくってバックアップしてほしい。	⑧ 学校図書館支援センターの役割については、勉強していきたいと思っております。市立図書館、学校図書館、公民館の図書館がありますので、各図書館の連携や協力体制が必要だと思っておりますし、また、子ども達が知識を作ることも必要です。支援センターを作るかどうかは今はいえませんが、それぞれの図書館の役割を踏まえて考察していきたいと思っておりますし、教育委員会にも伝えたいと思っております。	教育委員会	市立図書館においては学校に本を貸し出す制度を設けており、年度当初に校長会や教頭会で説明を行っています。学校からの要望があれば、図書の貸出を行いますので、お知らせいただければと思います。 なお、現時点で、学校から学校図書館支援センターを作ることにする要望は出ておりません。また、必要な資料についても、総合的な学習の時間に対応して、近年調べ学習用の図書の配備も増加しています。さらに、質の良い図鑑等については、市図書館と連携した「特別貸出」によって対応しておりますことから、現時点においては、その必要性については低いと考えています。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成26年7月2日(水)18:00~19:00
場所:かごしま市民福祉プラザ

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
8	NPO法人こどもサポート鹿児島 男性	⑨ 県のこども総合療育センターから紹介されて相談を受ける機会があるが、センターが学校に伝えると保護者に言ってから担任の先生に伝えるまでにタイムラグがあり、保護者が担任の先生との連携をうまくとれないという悩みを聞くことがある。県のセンターと学校の先生との連携を強化してほしい。	⑨ こども総合療育センターと学校の連携が図られ、確実な伝達が行われるよう、市教育委員会に話をしておきたいと思ひますし、市教育委員会から県教育委員会やセンターへもお伝えしていきたいと思ひます。	教育委員会	こども総合療育センターから学校への確実な伝達が行われるよう、ご意見の内容を県教育委員会やセンターにお伝えしたいと思ひます。
9	かごしま文庫の会 女性	⑩ 病気の子どもは、市立図書館や学校図書館に行くことができない。病気の子どもを支援するためにも、新しい市立病院には、図書室を作ってほしい。今の市立病院にも図書室があり、病院の先生が市立図書館のリサイクルの本をもらいに行っているようであるが、病気の人のためにはリサイクルのくたびれた本ではなく、元気の出るような新しい魅力的な本をそろえていただきたい。そして、ある民間の病院の患者図書室のように、専門の司書を採用してほしい。 また、できれば、病院の図書室と市立図書館とオンラインで結んでもらいたい。サンエールやメルヘン館の図書室は市立図書館と結ばれておらず、もったいないと思う。	⑩ 新しい市立病院は来年2月に完成予定です。図書室がどのような形で確保されるかは今は把握しておりませんが、現在の病院にあるということであれば、確保されているだろうと思ひます。本についてはおっしゃるとおりだと思ひますので、市立病院に話をしていきたいと思ひます。司書の採用については、人件費などが課題になってくると思ひます。	市立病院	【市立病院】 現在の図書コーナーは、外来患者及び付添いの方が待ち時間等に自由に利用していただける場として設けております。 また、小児病棟の入院患者の入院期間は平均7日間程度と比較的短期間であり、廊下やブレイルームに児童向け図書を約500冊置いて利用いただいております。また、長期入院の子どもに対しては、希望により院内学級を開設して学習等に取り組んでおり、教室にも図書を置いて利用いただいております。 新病院においては、図書コーナーも含め、同様のものを設ける予定ですが、院内に新たに図書室を設け、司書を配置する事や市立図書館とのオンライン化は、費用対効果の面から難しいと考えております。 今後は保護者のご協力の下、市立図書館等を活用いただく事や院内学級の教諭のご協力により、学校図書館を活用いただくことなどについて、検討してまいりたいと思ひます。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成26年7月2日(水)18:00~19:00

場所:かごしま市民福祉プラザ

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
10	円ブリオかごしま 女性	⑪ 現在民間の病院に事務所を借りて使わせてもらっているが、悩んでいる妊婦さんはなかなか事務所まで相談に来ない。また、集めた原資は東京に送っており、自分たちは手弁当で活動している。長崎では、なかまっちのような施設の運営を円ブリオの職員が委託を受けているが、そこから手当が出ていることで活動しやすくなっている。なかまっちかりぼんかんに円ブリオの窓口を作っていたら、ボランティアと行政がうまく連携することはできないか。	⑪ 私の市政運営の基本方針に「協働」があり、共に協力・連携をしながら事業を進めていこうとしております。具体的になかまっちやかりぼんかんでお願いしますということは言えませんが、なかまっちについては、指定管理者制度で民間の方に運営をお願いしておりますので、そのような形で携わりたいということであれば、入札に参加していただきたいと思っております。また、相談業務は市の保健所でも行っていることを情報発信していかなければならないと感じています。	健康福祉局	市長回答のとおり
11	Smooth 男性	⑫ これまで話を聞いてきて、子どもがわくわくするまちづくりをしていくことが大事だと感じている。市長が考える「子ども達がわくわくするまちづくり」とはどのようなものか。	⑫ 鹿児島市は人口60万5千人を擁する南九州の拠点都市ですが、少子高齢化が進んでいます。今を生きる人たちがしっかりとしたまちづくりをしないと、県外へ出ていく人がますます多くなるので、子ども達に鹿児島に魅力を感じてもらえるまちづくりが必要だと思っております。そこで、「子育てするなら鹿児島市」を市政の柱とし、子育て、教育、環境など、すべての分野をリンクさせてまちづくりを進めております。将来を担うのは今の子ども達であってほしいという思いで、子ども達へいい影響を与えられるような環境づくりをしていきたいと思っております。	企画財政局 健康福祉局	市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成26年7月2日(水)18:00~19:00

場所:かごしま市民福祉プラザ

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
12	NPO法人こどもサポート鹿児島 男性	⑬ 不登校の子どもをサポートするセーフティネットとして、鹿児島市や市教育委員会はどのように取り組んでいるのか。また、NPOなど民間フリースクールの活動に、どのような教育をしているのかなど、どの程度監視、観察をしているのかを教えてください。	⑬ 不登校の児童生徒は鹿児島市の小中学校で500名を超えており、憂慮する事態だと思っております。その解決のために、教育相談室やスクールカウンセラー、臨床心理相談員などを活用し、心理的カウンセリングにより悩みの解決を図っております。また、スクールソーシャルワーカーを採用し、本人では解決できない家庭環境の問題について相談に応じています。学校に行くことができずに悩んでいる児童生徒については、適応指導教室へ通っていただいたり、学習支援員を派遣して投稿していただくよう指導をしております。 不登校については、鹿児島市だけでなく各自治体の重要課題ですので、皆様のご協力をいただきながら、今後に対応していきたいと思っております。	教育委員会	市長回答のとおり